

# 剛体の力学

樋口さぶろお

龍谷大学理工学部数理情報学科

力学 L11(2010-07-07 Wed)

更新:Time-stamp: "2010-07-07 Wed 15:55 JST hig"

## 今日の目標

- ① (連続的な) 剛体の重心を積分で求められるようになる
- ② (連続的な) 剛体の固定軸のまわりの慣性モーメントを積分で求められるようになる



<http://hig3.net>

## Quiz1 略解

①  $v'_1 = 2, v'_2 = 1.$

② 運動量保存則

$$P = m \cdot 1 + m \cdot 2 = mv'_1 + mv'_2$$

合体より,

$$v'_1 = v'_2 \quad \text{同じことだが反発係数 } 0 = e = \frac{|v'_2 - v'_1|}{|2 - 1|}.$$

連立させて解くと,  $v'_1 = v'_2 = \frac{3}{2}.$

## Quiz2 略解

①

$$L_1 = 2\mathbf{r}_1 \times \frac{d\mathbf{r}_1}{dt} = 2 \times \mathbf{0} \times \mathbf{0} = \mathbf{0}$$

$$L_2 = 1\mathbf{r}_2 \times \frac{d\mathbf{r}_2}{dt} = 1(4, 0, 0) \times (0, -4, 0) = (0, 0, -16)$$

$$L_3 = 1\mathbf{r}_3 \times \frac{d\mathbf{r}_3}{dt} = 1(0, -4, 0) \times (-4, 0, 0) = (0, 0, -16)$$

$$L = L_1 + L_2 + L_3 = (0, 0, -32)$$

② 重心座標は  $\mathbf{R} = \frac{2(0,0,0)+1(4,0,0)+1(0,-4,0)}{2+1+1} = (1, -1, 0)$ .

$$\frac{d\mathbf{R}}{dt} = \frac{2(0,0,0)+1(0,-4,0)+1(-4,0,0)}{2+1+1} = (-1, -1, 0). \quad \mathbf{L}_G = (2+1+1)(0, 0, -2) = (0, 0, -8).$$

相対座標は  $\mathbf{r}'_i = \mathbf{r}_i - \mathbf{R}$ ,  $\frac{d\mathbf{r}'_i}{dt} = \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} - \frac{d\mathbf{R}}{dt}$  より,

$$\mathbf{r}'_1 = (-1, 1, 0), \quad \frac{d\mathbf{r}'_1}{dt} = (1, 1, 0), \quad \mathbf{L}'_1 = 2(0, 0, -2)$$

$$\mathbf{r}'_2 = (3, 1, 0) \quad \frac{d\mathbf{r}'_2}{dt} = (1, -3, 0), \quad \mathbf{L}'_2 = (0, 0, -10)$$

$$\mathbf{r}'_3 = (-1, -3, 0) \quad \frac{d\mathbf{r}'_3}{dt} = (-3, 1, 0), \quad \mathbf{L}'_3 = (0, 0, -10)$$

$$\mathbf{L} = \mathbf{L}_G + \mathbf{L}'_1 + \mathbf{L}'_2 + \mathbf{L}'_3 = (0, 0, -32)$$

## 離散的な剛体 rigid body

高木 II p.55

多数の小さな物体の集まり ( $N$  体系) で, 相互の距離が変化しないもの. 小さな物体 (質点) が, 質量 0 の伸縮したりしなかったりしない棒で連結されたもの.

剛体は

- 1 個の位置ベクトル  $r$  で指定できる位置にある. 移動できる. (これまでの '物体' と同じ)

- 

物理学におけるその他の理想化 弾性体, 流体, 粉体, 理想気体, ....

## 自由度のカウント

**自由度** 実質的な座標変数の個数. degrees of freedom

$N$  個の物体 (位置のみ, 向きなし).

剛体と対比して            (系) という (今まで物体と言っていたところ)

$(x, y, z) \times N$  個 =  $3N$  自由度

**離散的な剛体 (棒で固定された 3 質点 A,B,C)**

$(x, y, z) \times (A, B, C) = 9$  自由度

距離 AB, BC, CA が一定の条件  $\times 3$ .  $9-3=6$  自由度

## 連続的な剛体

### 高木 II §10.2

各質点  $m_i$  が、細かく分かれて、個数  $N$  が増えていくとする。  $N \rightarrow +\infty$  で、空間を埋め尽くした状態がイメージできる。

普通の固体の物体で、伸縮したり、変形したりしない、理想的に固いものを想像すればよい。

### (連続的な) 剛体の自由度

指定点の位置  $(x, y, z)$  3 自由度

向きを決める (例:Euler 角): 3 自由度

$3+3=6$  自由度.

### (連続的な) 剛体中の質量の分布

質量密度  $\rho(\mathbf{r})$  というスカラー場で表現される

$\mathbf{r}$  付近の小さな直方体  $\Delta x \times \Delta y \times \Delta z$  内の質量  $\Delta m$  を  $\rho(\mathbf{r})\Delta x \times \Delta y \times \Delta z$  と書いたもの. 単位  $\text{kg}/\text{m}^3$ .

ベクトル解析

中学校で言う  が位置  $\mathbf{r}$  に依存するようになったもの.

## 和:離散 と 積分:連続 の対応

$$\sum_i f(x_i)\Delta x \rightsquigarrow \int f(x) dx.$$

$$\sum_i f(\mathbf{r}_i)\Delta m_i \rightsquigarrow \int_B f(\mathbf{r})\rho(\mathbf{r}) dV.$$

$N$  質点  $\rightsquigarrow$  (連続的な) 剛体

$N \rightsquigarrow +\infty$

質量  $m_i$ , 位置  $\mathbf{r}_i$   $\rightsquigarrow$  質量密度  $\rho(\mathbf{r})$ .

和  $\sum_i m_i \dots \rightsquigarrow$  体積分  $\iiint_B dx dy dz \rho(\mathbf{r}) \dots = \int_B dV \rho(\mathbf{r}) \dots$

全質量  $M = \sum_i m_i \rightsquigarrow \int_B \rho(\mathbf{r}) dV$

$B$ : 剛体の範囲

微積 II, ベクトル解析

## 重心の求め方とその意味

$N$  体系や離散的な剛体  $\mathbf{r}_i$  の重心  $\mathbf{r}_G = \frac{\sum_{i=1}^N m_i \mathbf{r}_i}{\sum_{i=1}^N m_i}$ .

### 重心の意味

一様重力下で  回転しない

⇔ 剛体全体に、質量に比例する一様な重力がはたらくとき、重心に対する相対運動の力のモーメントは  $\mathbf{0}$ .

### 質量密度 $\rho(\mathbf{r})$ の連続的な剛体の重心

$$\begin{aligned} \mathbf{r}_G &= \frac{\int \mathbf{r} \rho(\mathbf{r}) dV}{\int \rho(\mathbf{r}) dV} \\ &= \left( \frac{1}{M} \int x \rho(x, y, z) dV, \frac{1}{M} \int y \rho(x, y, z) dV, \frac{1}{M} \int z \rho(x, y, z) dV \right). \end{aligned}$$



## Example 1

質量密度が  $\rho(x, y, z) = Ax$  で与えられる直方体  
( $0 \leq x \leq 3, -2 \leq y \leq 2, -3 \leq z \leq 3$ ) の質量は? 重心は?

## Example 2

質量密度が一定の薄い三角定規の重心?



## N 体系の回転運動の方程式 (復習)

N 体系の全角運動量の変化は外力のモーメントで決まる

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N}, \quad \mathbf{N} = \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i$$

外力  $\mathbf{F}_i$ :  $m_i$  にはたらく外力 高木 II p.29

内力  $\mathbf{F}_{ij}$ :  $m_j$  が  $m_i$  におよぼす内力.

第3法則  $\mathbf{F}_{ij} = -\mathbf{F}_{ji}$ . さらに  $\mathbf{F}_{ij} \parallel (\mathbf{r}_i - \mathbf{r}_j)$  を仮定.

$$m_i \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} = \mathbf{F}_i + \sum_{j \neq i} \mathbf{F}_{ij}$$

$$m_i \mathbf{r}_i \times \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} = \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \sum_{j \neq i} \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ij}$$

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \sum_i \mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i + \mathbf{0}.$$

## 離散的な剛体の角運動量と回転の運動方程式

角運動量の定義  $N$  体系と同じ:  $\mathbf{L} = \sum_i m_i \mathbf{r}_i \times \frac{d\mathbf{r}}{dt}$

## 剛体の回転の運動方程式

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N}$$

右辺は外力だけの力のモーメントだけで決まり、内力には関係しない。  
剛体が形を保つのは

があるおかげだが、角運動量を考えるときには忘れていいこと。  
外力の力のモーメント  $\mathbf{N} = \mathbf{0} \Leftrightarrow$  角運動量  $\mathbf{L}$  が保存。

## 固定軸がある離散的な剛体の角運動量

$z$  軸を固定軸とする.  $L_x = L_y = 0$ .

静止時の  $N$  質点の位置: 円柱座標  $(a_i, \phi_i, z_i)$  で

$$\mathbf{r}_i(t) = (a_i \cos(\phi_i), a_i \sin(\phi_i), z_i).$$

全体が  $z$  軸まわりに  $\theta(t)$  だけ回転すると,

$$\mathbf{r}_i(t) = (a_i \cos(\theta(t) + \phi_i), a_i \sin(\theta(t) + \phi_i), z_i).$$

$$\text{速度 } \frac{d\mathbf{r}_i}{dt}(t) = (-a_i \frac{d\theta}{dt} \sin(\theta(t) + \phi_i), a_i \frac{d\theta}{dt} \cos(\theta(t) + \phi_i), 0).$$

角運動量の  $z$  成分

$$\begin{aligned} L_z &= \sum m_i \left( \mathbf{r}_i \times \frac{d\mathbf{r}_i}{dt} \right)_z = \sum_i m_i \left( x_i \frac{dy_i}{dt} - y_i \frac{dx_i}{dt} \right) \\ &= \left( \sum_i m_i a_i^2 \right) \frac{d\theta}{dt} = I \frac{d\theta}{dt} \end{aligned}$$

$\frac{d\theta}{dt}(t)$



## 剛体の慣性モーメント

離散的な剛体で,  $I = \sum_i m_i a_i^2 = \sum_i m_i (x_i^2 + y_i^2)$  を,  $z$  軸のまわりの慣性モーメントという.

連続な剛体では,  $I = \int (x^2 + y^2) \rho(\mathbf{r}) dV$

一般の軸のまわりの慣性モーメント

$$I = \int (\text{固定軸と } \mathbf{r} \text{ との距離})^2 \rho(\mathbf{r}) dV$$

## (固定軸のまわりを回転する) 剛体の角運動量

$$L_z = I \frac{d\theta}{dt}$$

運動量  $p_x = m \frac{dx}{dt}$  に似てない?  $I$  は質量のような変化しない量.

$$\frac{dL_z}{dt} = \sum_i m_i r_i^2 \frac{d^2\theta}{dt^2}.$$

## (固定軸のまわりの) 剛体回転の運動方程式

$$I \frac{d^2\theta}{dt^2} = N_z$$

ニュートンの運動方程式  $m \frac{d^2x}{dt^2} = F_x$  に似てない?

### Example 3

内径  $a$ , 外径  $b$ , 厚さ  $h$ , 質量  $M$  の一様な 50 円玉の, 穴の中心を通り垂直な軸のまわりの慣性モーメントを求めよう。

## Example 4

長さ  $\ell$ , 質量  $M$  の細い (直径 0 の) 棒の, 棒の端を通り端に垂直な軸のまわりの慣性モーメントを求めよう。

### 教科書のお奨め問題 (重心)

高木 II [例題 10.2][例題 10.3](p.68,69)

高木 II 演習問題 [3][4][5](p.81) 高木 II 演習問題 [1][3](p.52)

### 教科書のお奨め問題 (慣性モーメント)

高木 II [例題 11.3][例題 11.4][例題 11.5] 高木 II 演習問題 [4][5][6](p.110)

2010-07-17 土 1 補講 2010-07-21 水 休講

みんなおぼえてると思うけど, 毎週 e ラーニングシステムで予習復習問題やっています。

### ファイナルトライアル計画!

- 別紙の案内参照。
- 模範解答を作ろうプロジェクトはない予定。